

学生会員の

声

●「不便」を知る●

モノづくりの原点に立ち返ったとき、そこには何があるだろうか？ 私は、この質問に対して「不便がある」と答える。例として、発明家 Thomas Alva Edison の功績を考える。彼が改良を施した白熱電球は、当時、明かりが少なかった街の夜に光をもたらし、人々の生活を豊かにしたであろう。この改良の原点においても、夜の闇という「不便」があったと言えないだろうか？

21 世紀の現在、とりわけ日本という国においては、我々は「不便」を感じる事が少ない。蛇口をひねると飲み水を得られ、コンビニを利用すればいつでも食べ物を得ることができる。また、PC やスマートフォンを使えば、世界各国の情報を瞬時に得ることができる。

このすべてが“便利化”された日本において、私は、「科学者・技術者として、どのように活躍できるだろうか？」と、漠然とした将来を考えつつ、心の半分では、便利化された日本の環境に甘え浸る日々を過ごしていた。そんなある日、フィリピン短期留学の誘いを受け、期待と不安が交錯する中、自分自身の成長の為に参加を決意する。

今回、「学生会員の声」の執筆を通して、フィリピン短期留学で学んだことと、それを踏まえた化学業界全体のグローバル化について考えたい。

フィリピン短期留学と私

TOEIC の点数を上げる。当初は、それだけの目的で英語の講義を受講していた私だが、ある日の講義の終わり、英語の先生からこんな誘いを受けた。

「フィリピン短期留学に参加しないか？」

留学への憧れは持っていたものの、まさか人生初の留学先がフィリピンになるとは…。誘いを断ることも考えたが、低価格で英語留学ができること、時期が研究室の夏休

み期間であること、さらに、TOEIC の点数が伸び悩んでいたことも相俟って、参加することを決意した。

日本から飛行機で3時間、さらにマニラからバスで6時間の道のり、私は国から国への移動時間より、フィリピン国内の移動時間の方が長いことに、不思議な感覚を覚えた。

フィリピンでの生活を始めた当初、語学で苦勞することもあったが、それ以上に私は、日本では経験できない数々の「不便」に悪戦苦闘していた。水道水が飲めないことは勿論、停電が不意に起こり、Free Wi-Fi は安定しない。何より驚いたのが、トイレにトイレットペーパーを流せないことだ(ゴミ箱に捨てるらしい)。日本のトイレで生活してきた私にとっては、まさに、「便できず=不便」。

また、韓国人との共同生活は、自分の甘えを見直す良いきっかけとなった。韓国における大卒就職率は55%前後であり、日本のそれとは比べものにならない。故に、彼らの英語に対する貪欲さは、私の想像を遥かに超えていた。ある韓国人学生は、「TOEIC800点を取るまでは、国へ帰らない」と言う。この日本人と韓国人の意識の違いは何だろうか？ やはりここにも、韓国国内における就活競争の激しさという、「不便」が存在する。即ち、「不便」とは、人が何か努力し、何かを見つけ出す原点ではないだろうか？

学生生活の中で、フィリピンで過ごした一カ月ほど苦しい時間はなかったと思う。しかし、そのたった一カ月は、私に本物の「不便」を教えてくれた。この「不便」を知ったからこそ、今後、自分が世界を相手に活躍するイメージを持つことができたと思う。

化学業界のグローバル化と私

化学業界の発展なしに、最終製品の進化はあり得ない。海外との競争が激化する中、日本における化学業界全体のグローバル化は急務である。一方、化学業界を志望する学生のグローバル化はどうだろうか？ “勉強して英語を話す”これがグローバル化だろうか？ 確かに英語を話すことは重要である。しかし、それ以上に私は、英語を“経験する”これが重要と考える。何故なら、英語とはコミュニケーションの Tool であって、本質ではないのだから。

最後に、私は化学工学の醍醐味を、「何を作るか？」ではなく、「どう作るか？」にあると常々考える。それは、最終製品の品質・価格という形で、先進国、発展途上国を問わず、人々の生活の豊かさに貢献する。そして未来、それを担う一人の若者として、私は「化学工学」を学び続けたい。

(山口大学大学院医学系研究科 三穂野 海)